

五 国 企 業
見 聞 録

大内工業株式会社

育成と経営の両立を目指す若き製缶鋸金業者

我々が日々調査業務を行うなかで出くわす企業の課題の多くが「ヒト」である。従業員の高齢化や後継者問題、採用活動の低進捗など「ヒト」に関する課題は様々である。そうしたなかでも、人材育成に関する悩みは多くの経営者が抱えているのではないだろうか。若手社員の育成にじっくりと時間をかけて取り組みたいものの、会社を経営する以上、目の前の利益も追及しないとイケない。そういったジレンマは経営のつきものと言えるだろう。今回は、若手社員の育成を行いながら、企業として日々成長を続ける大内工業(株)の代表取締役社長である大内祐司氏にお話を伺った。



自社工場の稼働も開始、「会社」として進化し続ける

『個人商店』から『会社』への進化

当社は製缶鋸金業者として、平成22年1月に個人創業。トラックなど産業用車両のフレームやコンテナ部分など架装部分やプラントのタンクなどの製造を行っている。業歴は12年と後発の業者となるものの、代表の大内社長自ら周辺業者への新規開拓を愚直に続けきたほか、従業員の処理能力に合わせた無理のない範囲での受注に制限することで高い品質を維持し、着実に業容を拡大してきた。

令和3年4月には念願であった自社工場の稼働も開始し、現在はISO9001の取得準備を進めるなど、着実に「個人商店」から「会社」としての進化を遂げている。

“考”動による底上げ

当社は、代表の大内社長を筆頭に多くの社員が20～30歳代と若手中心で構成されている。創業時より在籍するメンバーもいるが、多くが開業後採用を進めてきた従業員だ。上述の通り、創業当初より社長自ら現場管理を行うことで「無理のない受注」にこだわりを持ち、従業員が

成長できる環境づくりに注力してきた。また、従業員へは現状「まずは自分で考える」「何も考えずに行動はしない」の2点だけを求めてきた。チームビルディングは、あくまでもエース社員の成長も大事だが、全体としての底上げが一番ととらえており、その指針が創業以来の成長につながっていると見えよう。

さらなる成長に向かって

今、大内社長は「言語化」というキーワードを個人の課題としてとらえている。日々従業員は成長を続けているが、次の段階として管理職を担う社員の成長を期待しており、そのために自分自身の考えをしっかりと伝えるため、いかに言葉にするかという点を考えている。「自分はいくまでも大内工業に社長として『雇われている』という意識でいる」と語る大内社長。自分だけでなく、あくまでもチームとして様々なリーダーが出てくる。そういった自発的なチームを目指し、今日も大内工業は成長を続ける。

(神戸支店 調査第2部 中井 篤)

会社概要

商 号：大内工業株式会社
 (TDB企業コード：816014850 法人番号：6140001097735)
 代 表：大内 祐司 氏
 住 所：神戸市西区岩岡町古郷1422-28
 電 話：078-939-6051
 U R L：<https://www.ouchikougyou.co.jp/>



大内工業株式会社

